

福島県立医科大学医学部6年生の皆様へ

(自治医科大学医学部6年生 佐藤 悠)

初めてメッセージを送らせていただきます、自治医科大学医学部6年生の佐藤悠と申します。私は福島県いわき市出身で磐城高校を卒業後、自治医科大学に入学いたしました。来年度は福島県立医科大学附属病院でお世話になりたいと思っております。

私は福島県立医科大学6年生の皆様と福島県で働くことについて一緒に考えていきたいと願っております。先の震災で福島県は甚大な被害を受けました。地震、津波、原発事故、風評被害、更には大雨など暗いニュースが続き「縮む福島」とまで言われています。今回は現在私が福島県で働くにあたり考えていることを述べますので、今後意見の交換ができればと思います。

まずは医師としての使命についてですが、今回の震災を経て福島県で働く医師に求められることはずっと増えたと思います。県民の皆様は未だ収束を見せない放射線問題に不安を感じ、また不安は今後ずっと付いて回ることと思います。少し体調を崩したときや悪性腫瘍をはじめとする疾患に罹患したとき、妊娠・出産に問題が生じたときなどに、我々医療関係者からすれば全く被曝の影響が考えられなくても、患者さんが被曝について疑念を持つことがあるかと思えます。その時に患者さんのお話を聞き、被曝の影響についての説明を含め適切な対応が求められます。定期的な健康状態のチェックや心のケア、小児や高齢者への対応も今まで以上に必要になっていくと思います。

次に自分のあるべき姿についてですが、患者さんの傍らで不安を分かち合い少しでも軽くできる医師になりたいと思います。また私たち自治医大生は卒業3年目からマンパワーの足りない僻地医療に携わるため、初期研修の間に出来る限り自分の力を伸ばしたいと思います。福島県のあるべき姿としては、避難者の生活や原発問題が改善し、県民全体が福島県の復興を感じることができるようになることが必要だと思えます。県民の健康に関しては被曝量の測定や疫学調査、長期的な健康管理の体制の確立も必要だと思えます。

最後に今自分がすべきことは、残りわずかな学生生活を最大限充実させることだと思えます。私たち自治医大生は前述の通り卒業3年目には僻地医療に携わるため、その時までに必要な知識や手技を習得することができるのか、という不安をいつも感じております。少しでも不安を減らせるよう、勉学に励んでいきたいと思えます。また、私を含め福島県出身の自治医大生は普段なかなか福島県に帰ることは出来ませんが、福島県立医科大学の皆様と交流を深めていきたいと思っております。FACEなど機会があれば積極的に参加していきます

ので、お会いできたならばよろしくお願ひいたします。

以上自分の目標や理想を述べました。私が福島県で働くことについて考えるのは、福島県出身であることや自治医大生は福島県で働くことが決まっているからといった理由も一部ありますが、最大の理由は今苦しい時期にある福島県のために何か自分に出来ることをしてみたいと思うからです。今後福島県について皆様と意見を交換し共に考え一緒に働いていけたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(自治医科大学医学部 6年 牧 匠)

私は福島県出身の医学生という立場にあり、将来は福島県の医療に貢献したいと考えています。震災以来、福島県はかつてない逆境に立たされていますが医師として何が出来るのか。その1つは、それまでと変わらずに目の前の患者に真摯に向き合っていくことであると考えました。福島の医療の谷間に灯をともしすことを実践していけば、福島の復興につながり、更に発展していくはずであると考えます。

(自治医科大学医学部 6年 増子 遼介)

はじめまして。自治医科大学6年の増子遼介と申します。来年度より福島県にて初期臨床研修を行う予定です。この度、来年度より福島県にて初期臨床研修を行うに当たり、同じ医学部6年に向けてのメッセージを記します。

私たち自治医科大学卒業生は初期臨床研修を出身県で行わなければならないとの規定があります。先の震災では、私たちも福島で初期臨床研修を行うことができるのか不安で福島県立医科大学の大谷先生に相談させていただいたこともありました。私たちが震災後、自らの研修を考える際に最も重要視したことは、他県の研修病院と同等、もしくはそれ以上の研修をできるかどうかという点でした。医師として働くに際し、最も重要なことは何でしょうか。有名な研修病院で働くことでしょうか。有名な指導医がいることでしょうか。私たちは研修病を選ぶ際に様々な選択肢はありませんでした。その中で、自分自身にとって成長できるいい病院はどこなのかと詳しく調べたりすることで、福島の研修病院の素晴らしい点を見つけました。

現在の福島を支えていくのは福島に接している人の力が重要です。注目されているいまであるからこそ、発信できる何かがあるし、チャンスだと思っています。様々なサポート体制も充実しており、福島全体で取り組むことは多々あります。福島で大震災から失ったものを取り戻すには経験した人の力が不可欠です。魅力的な福島にするためにも、共に力を合わせて切磋琢磨していきましょう。よろしくお願ひします。